

教育研究業績書

令和5年5月8日

氏名 浅野 真理子



教育上の能力に関する事項

事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例 1)スライドおよび配布プリントを用いた授業 2)公的機関による正しい情報収集の実践	平成24年9月～	1)講義では、膨大な情報を学生に素早く提供するためにスライドを使用して授業を行っている。 学生には穴埋め式の資料を配って授業外で復習しやすいようにサポートしている。さらに、なるべく双方向の授業となるように、学生とのコミュニケーションに努めている。また、毎回授業終了時に確認テストを行い、学生の理解度を把握し、必要であれば次回授業時に補足説明を行っている。テストは返却し、学生は復習に利用。 2)インターネットから取得できる情報のなかで、信頼できる情報はなにかを学ばせる。(厚生労働省、食品安全委員会のHPなど)。
2 作成した教科書・教材	令和4年7月～	管理栄養士国家試験対策として発行されている「クエスチョンバンク」(問題解説集、(株)メディックメディア)において、令和4年度発行・令和5年度発行分に一部執筆。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年 月	概要
1 資格, 免許	平成15年3月 平成17年9月	栄養士免許 管理栄養士免許
2 学校現場等での実務経験	5年 5年 4年 2年	武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科助手として、管理栄養士養成課程における学生指導に従事 (H21年4月～H26年3月) 摂南大学看護学部看護学科非常勤講師 「食生活論」を担当 (H24年9月～H29年3月) 武庫川女子大学短期大学部食生活学科 (栄養士課程) 非常勤講師 「栄養学実習」(H25～H28年度)、「応用栄養学Ⅰ」(H28年度)、「応用栄養学実習」(H28年度)を担当 大阪松蔭女子大学健康科学部食物栄養学科 (管理栄養士)

様式第4号（教員個人に関する書類）

		3年	課程) 非常勤講師 「応用栄養学実習」を担当 (H26年4月～H27年9月)			
		2年	関西労災看護専門学校非常勤講師 「栄養学」を担当 (H26年4月～H29年3月)			
			園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科非常勤講師 「栄養学」「代謝学」を担当 (H27年9月～H29年3月)			
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 京都府スポーツセンターにおける栄養指導 2) 運動部所属高校生への栄養教育 3) SATシステムを使った体験型の食育講座 講師 (スポーツクラブ 21 中山五月台)	平成 26 年 4 月～ 平成 29 年 10 月～ 平成 30 年 7 月～		1) 京都府内の高校運動部に所属する生徒に、3日間の食事記録をもとに栄養相談を行っている。 2) 関西学院高等部の運動部所属生徒に対して、年2回、栄養教育講座を実施している。 3) スポーツクラブ 21 中山五月台でスポーツをしている小学生の保護者を対象に、SATシステムを用いた食育講座を行っている。			
4 その他 1) 委託研究による女子大生への介入試験	平成 25 年 7 月～平成 26 年 10 月		1) 企業からの委託研究により、女子大生における介入試験 (体脂肪減少、便通改善など) を行った。(ACN2015 (第 69 回日本栄養・食糧学会) にて報告)			
担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
応用栄養学 I						
応用栄養学 II						
応用栄養学 III						
スポーツ栄養学						
栄養マネジメント						
食と地域の実践演習						
	その他					

様式第 4 号 (教員個人に関する書類)

	<p>(学術論文) 1 Influence of Multi-grain koji Supplementat ion on Body Fat Reduction in Rats Consuming a High Fat Diet and in 20 Young Women : A Single Blind Placebo-contro lled Intervention Study in a Single Center</p>	<p>共</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>Food Sicence & Technol ogy Researc h 25(3)</p>	<p>(435-4 42)</p>	<p>(共同研究により抽出不可) 雑穀麴 (MGK) は、7 種類の穀物を混 合して発酵させた酵素が豊富な食品 である。本研究では、高脂肪食を与 えたラットと若い女性の体組成に対 する MGK の効果を評価することを目 的とした。ラットにおいて、肝臓脂 肪と内臓脂肪の重量は、オートクレ ーブ処理した MGK を与えた群より も、MGK を添加した高脂肪食群の方 が低かった。ヒト試験では、体重、 BMI、および体脂肪率は、MGK 摂取前 に記録された値と比較して大幅に減 少し、MGK の補給が女性の体脂肪の 減少に効果的であることが示唆され た。 (共著者 : K Takahashi, A Maeta, M Asano, T Iguchi, T Segawa)</p>
	<p>2 発酵による 農林 61 号全粒 粉のアレルゲ ン低減</p>	<p>共</p>	<p>平成 27 年 8 月</p>	<p>日 本 食 品 科 学 工 学 会 誌 Vol62(8)</p>	<p>(374-3 81)</p>	<p>(共同研究により抽出不可) 農林 61 号全粒粉の低アレルゲン化 を目的に、麴、酵母、納豆菌から 10 種の菌株を選択し、24-72 時間発酵 させプロテアーゼ活性を測定した。 さらに SDS-PAGE およびキャピラリ ー電気泳動でタンパク質変化と小麦 アレルギー患者血清を用いてアレル ゲン性を確認した。その結果、10 菌 株のうち納豆 (千葉) 由来 <i>Bacillus subtilis</i> による発酵が、プロテアー ゼ活性が高く、患者血清よる IgE 結 合性でも 82%の低下を示した。HPLC と LC-MS/MS 分析から、低減化したタ ンパク質は γ-グリアジンおよび LMW-GS であることを明らかにした。 (共著 : 竹本和仁、前田晃宏、<u>浅野 真理子</u>、高橋亭子)</p>
	<p>3 農林 61 号全 粒粉の主要ア レルゲンの同 定とその性質</p>	<p>共</p>	<p>平成 27 年 2 月</p>	<p>日 本 食 品 科 学 工 学 会 誌 Vol 62(2)</p>	<p>(104-1 13)</p>	<p>(共同研究により抽出不可) 国産小麦農林 61 号のアレルゲン・タ ンパク質を明らかにするため、全粒 粉から水溶性画分 (F1)、塩可溶性画 分 (F2)、エタノール可溶性画分 (F3) を得た。小麦アレルギー患者 13 名の 血清による膜免疫反応の結果、F3 が 全ての患者血清と陽性反応を示し た。F3 画分の 2D-PAGE と膜免疫反応</p>

	<p>4 拘束ストレスがBNラットの OVA 特異抗体価および骨密度に及ぼす影響</p>	<p>共</p>	<p>平成 26 年 3 月</p>	<p>日本栄養・食糧学会誌 Vol 67(2)</p>	<p>(87-94)</p>	<p>の陽性スポットの LC-MS/MS 分析から主要アレルゲンは、α-グリアジン、α/β-グリアジン、γ-グリアジン、LMW-GS と推定された。農林 61 号の水可溶性画分、塩可溶性画分、アルコール可溶性画分には、小麦アレルギーの主要アレルゲンの一つとされている ω-5 グリアジンは、検出されなかった。F3 のアレルゲン性は pH 10 で加熱されると僅かに低減化を示したが、高温・高圧に対してアレルゲン性は安定的であった。 (共著：竹本和仁、<u>浅野真理子</u>、高橋享子)</p> <p>(共同研究により抽出不可) Brown Norway (BN) ラットを用いて、拘束ストレスがアレルギー誘導時における腸間膜リンパ節リンパ球の免疫機能および骨密度に与える影響について検討した。ストレスは、血漿コルチコステロン量や食餌量に影響を及ぼした。さらに、ストレス負荷下のアレルギー誘導群の骨密度の増加率は、ストレス非負荷群よりも低い値を示した。ストレス負荷下のアレルギー誘導群の血漿 IgE、IgG1、IgG2a、OVA 特異 IgE、OVA 特異 IgG1、OVA 特異 IgG2a は、いずれもストレス負荷前に比較して有意な増加を示した。このことより、ストレスがアレルギー誘導時の局所性腸管免疫応答に強い影響を与え、Th2 細胞への分化が優位に誘導され、さらに、骨密度形成に影響を与えたものと考えられた。 (共著：酒井英弥子、鈴木宏枝、宮井弓菜、頼田美佳、<u>浅野真理子</u>、高橋享子)</p>
	<p>5 Wheat gluten hydrolysate alters the progress of hepatic pathology induced by prolonged carbon</p>	<p>共</p>	<p>平成 23 年 11 月</p>	<p>Biomedical Research 22(4)</p>	<p>(481-488)</p>	<p>(共同研究により抽出不可) SD 系雄性ラットに四塩化炭素を 25 週間継続投与して肝障害を発症させ、四塩化炭素投与 3 週目より小麦グルテン加水分解物を 4%あるいは 8%混餌投与した。その結果、小麦グルテン加水分解物投与群において、血清 AST、ALT 活性は低く、特に 8%投与群において ALT 活性の上昇ピークが遅延された。組織学的解析から</p>

様式第 4 号 (教員個人に関する書類)

	<p>tetrachloride administratio n in rat.</p>					<p>も肝障害の発症が軽減されたことが明らかとなった。 (共著者：Y. Suzuki, <u>M. Asano</u>, K. Sato, M. Asami, A. Sakamoto, M. Tsutsumi, Y. Kido)</p> <p>ラット好塩基球白血病細胞を用いたスクリーニングにおいて高い脱顆粒抑制作用を示したヨモギ熱水抽出物を酵素処理することによりヨモギ酵素分解物を得た。その結果、酵素処理物は熱水抽出物の 7 倍高い脱顆粒抑制活性を示した。そこで、ヨモギ酵素処理物について HPLC を用いて分画し、分析を行った。その結果、ヨモギ酵素分解物の主要な脱顆粒抑制作用は、カフェ酸に由来することが示唆された。 (共著：山本沙織、仲地伸枝、<u>浅野真理子</u>、渡辺敏郎、高橋享子)</p>
	<p>6 ラット好塩基球白血病細胞におけるヨモギ酵素処理物の脱顆粒抑制作用</p>	<p>共</p>	<p>平成 23 年 9 月</p>	<p>日本食品科学工学会誌 Vol 58(9)</p>	<p>(460-463)</p>	
	<p>7 ラット好塩基球白血病細胞における生薬抽出液の脱顆粒抑制作用</p>	<p>共</p>	<p>平成 23 年 7 月</p>	<p>日本食品科学工学会誌 Vol 58(7)</p>	<p>(330-334)</p>	<p>生薬の I 型アレルギー抑制作用を明らかにすることを目的として、83 種類の生薬熱水抽出物について脱顆粒抑制作用を検討した。その結果、30 種類の生薬に有意な濃度依存性の脱顆粒抑制作用が認められた。なかでも、根・根茎由来の粉防己、狗背、遠志、また樹皮由来の肉桂が高い効果を示した。 (共著：<u>浅野真理子</u>、土肥愛、矢澤一良、米谷俊、高橋享子)</p>